



福中 満

### 農業公社の設立

**問** 町長の公約である農業公社設立について

**答** 必ずしも農業公社の設立を目的としたものではないが、まずは集落のコミュニティを守るための多面的機能の活用をはじめ、地域集落で解決するためのサポートや土地改良区が実施する円滑化事業等により、農地の集積を進め、経営規模の拡大を支援する。併せて、公社もしくは公の団体が受け皿となる組織の整備が必要と考えている。

### 獣害対策

**問** 今後の獣害対策について

**答** 今後新たに鳥獣被害特別対策措置法に基づく緊急捕獲事業への取り組みを計画している。昨年

## 一、農業公社の設立 二、獣害対策 三、森林整備事業

度より実施の緩衝帯整備事業については、一定の防護効果があると考え、

山林所有者と周辺農地所有者のご理解・ご協力を得ながら進めたい。

現時点では有害鳥獣捕獲事業に伴うジビエ等については有効活用を行う考えはない。しかし捕獲

個体の処理は捕獲従事者の最大の懸案であり、関係機関と連携を図り、最終処理のあり方について引き続き検討する。

### 森林整備事業

**問** 今後の里山・森林整備について

**答** クリの立ち枯れ調査については、昨年度より独立行政法人大阪府環境農林水産総合研究所により、町内4カ所から5カ所の被害園地で継続的に調査が実施され、特定の

園地、数カ所において「黒根立枯病」である可能性が示された。

今後は効果的な防除の手法等の専門知識を有する関係機関と連携して対処していきたい。

町が実施する森林整備支援として、平成26年度から平成28年度に合わせ、搬出間伐、切り捨て間伐、約227ha、路網整備、約1970mの整備を実施してきた。今後も人工林においては森林所有者の理解を得ながら、林野庁所管事業の活用により整備を進めていきたい。



## 一般質問



長尾 義信

**職員の人材育成及び窓口サービスについて**

**問** 職員の人材育成を更に効果的に推進する方針に役割及び住民が満足するより良い窓口サービスの提供を問う。

**答** 職員自身の意欲により、自己啓発を基本方針と位置付けている。

組織の役割として、外部研修や職場内研修（接遇など）を実施している。

今後、職員個々の能力が最大限に発揮される組織づくりに努める。



**能勢の郷の利活用について**

**問** 昨年、大阪府から購入した能勢の郷の現況と今後の利活用を問う。



**答** 隣接している住宅地に沿って高木の伐採、草刈りやバリケードの設置など安全面の確保及び景観保全を意識した管理に努めている。

今後の利活用については、地元や観光協会などとも協議の上、地域と施設の実情に適した運営方法を検証する。

## 地域住民の生活に密着した 行政サービスの実現を!!

**「広報のせ」の発行について**

**問** 紙面を読みやすく、興味を持ちやすい内容にするなど、掲載に対する住民からの要望を聞いている。

全住民に届ける広報紙について、今後のあり方を問う。

**答** 本年4月から、広報紙を活用した町内事業所のPRを加えるなど、積極的・多角的な情報を発信する。

今後も住民の皆さまにとって読みやすく、分かりやすい広報紙の発行に努める。

